

放っておくと危ない! 気になる症状

耳鳴り

耳鳴りの種類や程度は様々ですが、その音によって大まかな状態が予想できま
す。耳を押さえたとき「ガサガサ」「ゴソゴソ」と音がする場合は、耳の穴や鼓膜の近くに耳垢や髪の毛が入っていることが
あります。「クチャクチャ」「ピチピチ」などは外耳道に耳漏があること、
「ゴボゴボ」、「ゴーゴー」や「ザーザー」、「ウウォーン」などは滲出性中耳炎で中耳に水が貯まっている場合、中耳と鼻の奥をつなぐ耳管という管の状態が悪い場合や、内耳の低音部を感じる部分
が悪い場合に起こることが多いようです。また「キーン」「シューン」「ピー」や「セミ」の鳴くような音などは、内耳の高音部を感じる部分が悪い場合に起こります。

耳鳴りがある場合注意しなければならぬのは、聴力の低下を伴っているかどうかです。特に内耳や聞こえの神経の病変については聴力検査で聞こえを確認する必要があります。ある日急にこのような耳鳴りが起こり、聞こえも悪くなった場合、突発性難聴が考えられます。この病気は内耳の音を感じる装置が急に障害されて起こるもので、原因は不明です。耳鳴りは音を感じる装置が障害されたために二次的に起こるので、聴力を改善させることが治療の基本です。突発性難聴は発症してから2週間位の間に治療を始めないと治り難くなります。耳鳴りの症状が主で軽い難聴の場合でも、早めの受診をお勧めします。加齢による難聴に伴う耳鳴りは最も頻度の高いものですが、病気としては放置しておいても差し

支えありません。気になる場合は内服治療を行います
が、効果のある薬を探していくこととなります。

耳鳴りや難聴が起こり、治療しても治り難い場合、まれに聴神経腫瘍という病気であることもあります。これはMRIを撮って確認します。ほとんどが良性腫瘍で経過を診ることが多いのですが、増大傾向があればガンマナイフという特殊な放射線治療や手術を行います。

ほとんどの耳鳴りは自分にしか聞こえないので、その悩みを他の人に理解してもらえないという難しさがあります。治療すべき病気を確認することが最も大事といえるでしょう。

佐伯地区医師会

ひらた耳鼻咽喉科

アレルギー科

平田 思